

窓口支援事例 【滋賀県 知財総合支援窓口】 平成29年度版

企業情報

ODDS AND ENDS

所在地	滋賀県東近江市		
ホームページ URL	https://kotobanarabe.com		
設立年	2015年	業種	オーダーメイド雑貨制作・販売
従業員数	1人	資本金	—

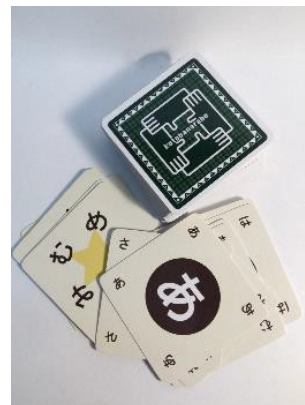
企業概要

手作りで木工製品の製造販売やペーパーアイテムのデザイン等をオーダーメイドで行っています。

自社の強み

お客様の考える「こんなものがあたらいいな」や「こんな楽しそう」というアイデアを相談しながら形にしています。

近江商人の三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）の考え方を元に、「何事にも楽しく」をモットーに運営しています。



一押し商品

今回権利化できた「kotobanarabe」（特許第 6164563 号「学習教材玩具」）は、ひらがなを繋げてどんどん言葉を作っていく知育玩具です。子どもからお年寄りまで脳を柔らかく刺激し、遊びながら学べるカードゲームです。コミュニケーション力も高めながら、幅広い年齢層に手軽に楽しんでもらえる商品です。

また、記念品や贈り物として好評の「ippoo」もオススメです。こちらは温かみのある天然木で、生まれたときの足形を原寸大そのままに再現し、側面から見たときには名前がかたどられている商品です。出産のお祝いや 20歳の記念など、お子さまの成長を祝う記念品として好評です。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

相談者が滋賀県のインキュベーション施設「米原SOHOビジネスオフィス」に相談された際、同施設のインキュベーションマネージャーに当窓口を紹介して頂いたことがきっかけです。

最初の相談概要

相談者が創作された学習用のカード遊びについて、知的財産権が取得できるかどうかの相談でした。そのカード遊びの内容について聞いたところ、非常に面白いものでしたが、カードの遊び方は人為的な取り決めであり、特許には馴染まない旨を説明しました。しかし、カード自体がユニークであり、その構成で権利取得できるか否かを、当窓口専門家の相談会にて相談するようアドバイスしました。

その後の相談概要

外部の相談会にて相談された結果、構成に権利化の可能性があるとのことで、窓口では特許調査や特許出願の支援を行い、その後の拒絶理由通知にも専門家（弁理士）の支援を受けて特許登録になりました。現在は、販売に向けて、協力会社とともに商品化の実現に進まれています。また、協力会社との通常実施権許諾契約についても支援をしています。

窓口を活用して変わったところ

創作されたカード遊びを世間に広めたいという相談者の思いから、知財総合支援窓口を利用されることにより、アイデアを権利化することが可能となり、更にその権利化によって商品化する協力会社が得られました。これらの過程を通じて知財権の重要性に気づかれ、今後の事業展開において知的財産を活用されることを推進されています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

当初「kotobanarabe」を知財権で保護するつもりは無かったのですが、ひょんなことから権利化することになりました。

もし、こんなものでも権利化できるのか？と悩んだら、一度相談してみたいかがででしょうか？ 人生なにが起こるかわかりません。

窓口担当者から一言（氏名：吉井 映滋）



相談者のアイデアを権利化できたことにより、商品販売したい協力会社の動きが加速しました。権利化された商品が世の中に販売されることが叶えられるまで、支援できたことは幸せであると感じています。これからの商品販売の展開が全国的に広がっていくことを期待しています。

窓口支援事例 【滋賀県 知財総合支援窓口】 平成29年度版

企業情報

ODDS AND ENDS

所在地	滋賀県東近江市		
ホームページ URL	—		
設立年	2015年	業種	オーダーメイド雑貨制作・販売
従業員数	1人	資本金	—

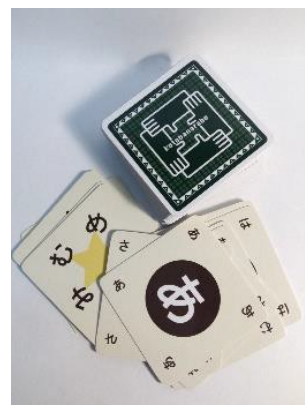
企業概要

手作りで木工製品の製造販売やペーパーアイテムのデザイン等をオーダーメイドで行っています。

自社の強み

お客様の考える「こんなものがあっていいな」や「こんな楽しそう」というアイデアを相談しながら形にしています。

近江商人の三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）の考え方を元に、「何事にも楽しく」をモットーに運営しています。



一押し商品

今回権利化できた「kotobanarabe」（特許第 6164563 号「学習教材玩具」）は、ひらがなを繋げてどんどん言葉を作っていく知育玩具です。子どもからお年寄りまで脳を柔らかく刺激し、遊びながら学べるカードゲームです。コミュニケーション力も高めながら、幅広い年齢層に手軽に楽しんでもらえる商品です。

また、記念品や贈り物として好評の「ippoo」もオススメです。こちらは温かみのある天然木で、生まれたときの足形を原寸大そのままに再現し、側面から見たときには名前がかたどられている商品です。出産のお祝いや 20歳の記念など、お子さまの成長を祝う記念品として好評です。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

相談者が滋賀県のインキュベーション施設「米原SOHOビジネスオフィス」に相談された際、同施設のインキュベーションマネージャーに当窓口を紹介して頂いたことがきっかけです。

最初の相談概要

相談者が創作された学習用のカード遊びについて、知的財産権が取得できるかどうかの相談でした。そのカード遊びの内容について聞いたところ、非常に面白いものでしたが、カードの遊び方は人為的な取り決めであり、特許には馴染まない旨を説明しました。しかし、カード自体がユニークであり、その構成で権利取得できるか否かを、当窓口専門家の相談会にて相談するようアドバイスしました。

その後の相談概要

外部の相談会にて相談された結果、構成に権利化の可能性があるとのことで、窓口では特許調査や特許出願の支援を行い、その後の拒絶理由通知にも専門家（弁理士）の支援を受けて特許登録になりました。現在は、販売に向けて、協力会社とともに商品化の実現に進まれています。また、協力会社との通常実施権許諾契約についても支援をしています。

窓口を活用して変わったところ

創作されたカード遊びを世間に広めたいという相談者の思いから、知財総合支援窓口を利用されることにより、アイデアを権利化することが可能となり、更にその権利化によって商品化する協力会社が得られました。これらの過程を通じて知財権の重要性に気づかれ、今後の事業展開において知的財産を活用されることを推進されています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

当初「kotobanarabe」を知財権で保護するつもりは無かったのですが、ひょんなことから権利化することになりました。

もし、こんなものでも権利化できるのか？と悩んだら、一度相談してみたいかがでしょうか？ 人生なにが起こるかわかりません。

窓口担当者から一言（氏名：吉井 映滋）



相談者のアイデアを権利化できたことにより、商品販売したい協力会社の動きが加速しました。権利化された商品が世の中に販売されることが叶えられるまで、支援できたことは幸せであると感じています。これからの商品販売の展開が全国的に広がっていくことを期待しています。

窓口支援事例 【滋賀県 知財総合支援窓口】 平成 29 年度版

企業情報

にじぼっこ

所在地	滋賀県東近江市		
ホームページ URL	—		
設立年	2015 年	業 種	教育・学習支援業
従業員数	1 人	資本金	—

企業概要

少人数制の家庭的学童保育事業を営んでいます。“創造する力、コミュニケーション力、自分を好きに” そんなことを大事にした民間学童保育を目指しています。また、使う教材玩具については、手作りの木工製品等を製造販売する「ODDS AND ENDS」と連携しています。

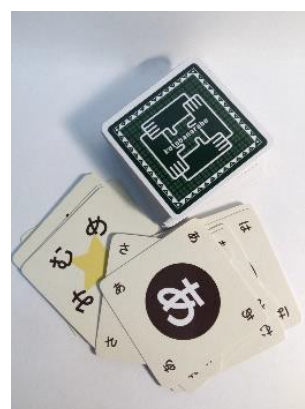
様々なニーズに応じた育児サポートができるよう日々精進しています！

<ODDS AND ENDS>

手作りで木工製品の製造販売やペーパーアイテムのデザイン等をオーダーメイドで行っています。お客様の考える「こんなものがあたらいいな」や「こんなの楽しそう」というアイデアを相談しながら形にしています。近江商人の三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）の考え方を元に、「何事にも楽しく」をモットーに運営しています。

自社の強み

長期休暇、夜間、一日だけなど、様々な状況に応じ育児サポートできる民間学童保育を目指しています。異年齢交流、多文化交流、様々な遊びなどに力を入れ、子どものみならず大人も共に学び、共に成長し合える場です。教員経験や海外移住歴があり、心理カウンセラーの資格も持ち合わせ、三人の娘を持つスタッフが、ニーズに合わせて子育てを応援いたします。



一押し商品

今回権利化できた「kotobanarabe」（特許第 6164563 号「学習教材玩具」）は、ひらがなを繋げてどんどん言葉を作っていく知育玩具です。子どもからお年寄りまで脳を柔らかく刺激し、遊びながら学べるカードゲームです。コミュニケーション力も高めながら、幅広い年齢層に手軽に楽しんでもらえる商品です。

また、記念品や贈り物として好評の「ippoo」もオススメです。こちらは温かみのある天然木で、生まれたときの足形を原寸大そのままに再現し、側面から見たときには名前がかたどられている商品です。出産のお祝いや 20 歳の記念など、お子さまの成長を祝う記念品として好評です。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

相談者が滋賀県のインキュベーション施設「米原SOHOビジネスオフィス」に相談された際、同施設のインキュベーションマネージャーに当窓口を紹介して頂いたことがきっかけです。

最初の相談概要

相談者が創作された学習用のカード遊びについて、知的財産権が取得できるかどうかの相談でした。そのカード遊びの内容について聞いたところ、非常に面白いものでしたが、カードの遊び方は人為的な取り決めであり、特許には馴染まない旨を説明しました。しかし、カード自体がユニークであり、その構成で権利取得できるか否かを、当窓口専門家の相談会にて相談するようアドバイスしました。

その後の相談概要

外部の相談会にて相談された結果、構成に権利化の可能性があるとのことで、窓口では特許調査や特許出願の支援を行い、その後の拒絶理由通知にも専門家（弁理士）の支援を受けて特許登録になりました。現在は、販売に向けて、協力会社とともに商品化の実現に進まれています。また、協力会社との通常実施権許諾契約についても支援をしています。

窓口を活用して変わったところ

創作されたカード遊びを世間に広めたいという相談者の思いから、知財総合支援窓口を利用されることにより、アイデアを権利化することが可能となり、更にその権利化によって商品化する協力会社が得られました。これらの過程を通じて知財権の重要性に気づかれ、今後の事業展開において知的財産を活用されることを推進されています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

当初「kotobanarabe」を知財権で保護するつもりは無かったのですが、ひょんなことから権利化することになりました。

もし、こんなものでも権利化できるのか？と悩んだら、一度相談してみたいかがでしょうか？ 人生なにが起こるかわかりません。

窓口担当者から一言（氏名：吉井 映滋）



相談者のアイデアを権利化できたことにより、商品販売したい協力会社の動きが加速しました。権利化された商品が世の中に販売されることが叶えられるまで、支援できたことは幸せであると感じています。これからの商品販売の展開が全国的に広がっていくことを期待しています。